

お茶大での1学期

同徳女子大学校

ユン・ジヘ

短いですがたくさん学ぶことができた5ヶ月でした。初めて日本に着いた日は嵐のような風雨が強い日でした。荷物が多くて傘をさすことができなかつたばかりか、学校内で待機施設をすぐに見つけられなくて道に迷いました。それで初日に待合施設の部屋に到着した時は「こんなに大変な所で半年間暮らせるかな？」という思いで涙も出ました。しかし初日に心配したのとは違って、4ヶ月が過ぎた今は韓国に帰りたくない気持ちが大きいです。

4月にはチューターさんと花見に行ったり、中目黒や新大久保に行ってみながら東京に慣れようと思いました。初めて日本に来たとき、食べ物が口に合わず悩んだ記憶もあります。5月にはゴールデンウィークがあって友達と京都と大阪に旅行もしました。京都に行く新幹線の中であいみよんの歌を聴きながらあいみよんのコンサートも行きたいと思って、旅行から帰ってすぐチケットを買ってあいみよんを見に行ったりしました。何でもあらかじめ計画を立てなければうまく始められなかった性格である私が、このように興味のあることをすぐに実行に移すことも大きな挑戦



になりました。初めて日本の映画館にも行って留学生の友達と遊びに行ったりしながら大切な経験を積むことができました。6月には国際交流センターでの文化体験教室に参加して生け花を学んで国立劇場に歌舞伎を見に行ったりしました。留学期間が一学期と短かったので、最大限多くの体験をしてみたかったです。そこで、お茶大生たちと直接交流できる Summer program にも参加し、日本人学生たちと会議もして、プログラムを企画してみました。たくさんの経験をしながら私の日本語の実力が足りないことを感じる時が多くて、むしろ迷惑になるような気がする時は委員会に参加したことを

後悔する時もありました。でも、本番まで終えた今から考えてみると、やっぱり挑戦してよかったと思います。私に先に話かけてくれて、会議が終わっても理解できなかった部分を説明しながら、スムーズに活動できるように最後まで助けてくれたチーム員たちに感謝を伝えたいです。

これから残された帰国までの1カ月の期間、やりたいことは全部やりたいと思っています。浴衣を着て夏祭りに行ったり沖縄旅行に行ったり、東京で有名なベーカリーに行ったり、学期中に忙しくて遊べなかった日本人や留学生の友達と楽しい時間を過ごしたいです。

一学期の間受けた授業は全部印象深かったですが、その中で一番記憶に残る授業は天木先生の日本事情練習 4A と

いう授業でした。この授業は留学生と日本人学生と一緒に受ける授業で、毎回他の学生と同じチームになってディスカッションを行います。先生があまり介入せず、授業全体が生徒たちの自発的な参加で行われる授業は受けたことがなくて不思議でした。世界の様々なイシューを学び、これについて意見を交わすことができ一番記憶に残っています。

このように一学期の間お茶の水女子大学で留学をした経験は、私の大学生活における大きな財産になると思います。短い期間でしたが、外国人学生とコミュニケーションを取ったり、ある感情を共有したり、一緒に笑ったり、辛かったりした経験があるかないかの違いは大きいと思うからです。同時に、振り返ってみると、日本にいた期間では本当に幸いなことが多い気がします。学期が始まる前に日本に無事に入国できて、Jasso 奨学金をもらえて、新しく建てられた寮で暮らすことができ、たくさんの良い友達と出会うことができ良かったと思います。そして何より、このような環境を提供してくださった国際科の先生と萩原先生、西坂先生、デレク先生に感謝を申し上げます。

